

令和4年度 第1回 愛宕小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和4年5月27日（金）9：30～11：00

2 場 所 愛宕小学校 本館2階 会議室

3 あいさつ

○委員長

政府からマスクを外すにあたっての指針が発表され、ようやくマスクを外せることにほっとしている。一方、感染は続いているので、本年度も、学校教育活動は慎重に進めていく必要がある。

○学校長

新型コロナウイルス感染拡大のため、一昨年度から学校支援ボランティア活動をはじめ、地域の皆様との連携活動が十分にできずにいた。しかし、昨年度10月にボランティア集会を久々に開催し、できるボランティア活動から再開してきた。本年度は、5月15日にボランティア活動についての説明・打ち合わせ会を行った。今後、各ボランティア活動を本格的な再開に向けて軌道に乗せ、海岸清掃、「あたごの灯り」、避難訓練、「ライブイン愛宕」といった地域との連携行事も推進し、地域とともにある学校づくりに努めたい。

本年度の学校運営協議会は、今回を含め、年間6回開催予定である。

4 協議内容

(1) 委員自己紹介

(省略)

(2) 令和4年度学校運営協議会の運営及び年間計画について

○校長

学校運営協議会の日時については、委員の皆様のご都合に合わせて、夕方や夜の開催など、時間を変更することも検討したい。学校の教育活動の年間計画においても、学校支援ボランティアや地域づくり協議会、自治会長会等との協働活動をしっかりと位置づけ、コミュニティスクールとしての学校づくりを、職員とともに進めている。

○委員長

学校運営協議会の司会は、これまで委員が順番に行っていた。次回からは、委員が順に行うこととする。記録は教頭がする。

(3) 令和4年度学校経営の改革方針について

○校長

昨年度は、まず、安心安全な学校づくりに取り組んだ。職員の危機管理研修、ガラス飛散防止フィルムの貼り付け、中庭の木の整理等を、地域の皆様のお力をお借りして行った。中庭が、見通しが良く、安全な場所となり、子どもたちに、休み時間に開放することができるようになった。本年度に入って、地域の方からメ

ダカをたくさん寄付していただき、池で飼育をしている。子どもたちが楽しみに見に来ており、憩いの場となっている。また、市制 80 周年レガシー事業を活用し、ソーラー時計を設置したり、まつかぜ学級前の学級園の土壌改良をしたりするなど、SDG's に関わる取組として、中庭整備をさらに進めていく予定である。

学力向上、教員の資質向上については、今年度は、教員一人ひとりが「授業の職人」としての自覚をもち、授業改善を主体的に進めている。研修部会では、今年度より社会科を窓口にして、地域から学ぶ授業づくりを進めている。5月16日には、三重大特任教授である市川先生を招聘して研修会を行った。5月30日には、教員が校区のフィールドワークを行って、地域にある教材を掘り起こし、今後の授業に活かしていけるよう計画を立てていく予定である。また、経験5年以下教員の授業研究への全職員の参画、学期毎に全員が行う授業公開等、教員同士の学び合いも推進している。ICTについては、研修会を年間4回実施するとともに、実践報告会を行って活用を推進していく。

人権教育については、今年度は既に2件のいじめと考えられる事案があり、子どもたち一人ひとりをしっかりと見つめ、いじめを「生まない」「なくしていく」取組を学校全体で推進しているところである。一方で、いじめが早期に発見できたのは、教員のいじめ問題についての意識の高まりの表れだとも捉えている。

不登校対策についても、子どもの兆候を見逃さないように努め、スクール・ライフ・サポーターやスクール・カウンセラーなどを活用して、一人ひとりの気持ちに寄り添った支援に取り組んでいる。

子どもたちの学校生活の様子や、学校が地域とともに教育活動を行っている様子等を発信するために、学校ホームページを随時更新していく。また、メール配信システム「マチコミ」を活用して、学校からの連絡を電子文書で行っている。

今年度、子どもたちの放課後のゆとりの確保のため、校時の変更を行った。教職員の慢性的な過重労働を改善するための働き方改革も継続して推進していく。

(質疑応答と意見)

○委員長

ICT化が進んでいるが、子どもたちはChromeBookに慣れてきているか。

→ 若手教員が中心となってICT活用を推進しており、子どもたちは随分慣れてきている。教員もICT研修を重ね、今年は、子どもたちが毎日必ずChromeBookを使うことを目標に、取組を進めている。

ICTにより、個々の意見を全体で素早く共有できるところがよいと思う。

→ 委員の皆さんに、ICTを活用した授業の様子をぜひ見ていただけるようにしていきたい。

○委員

国がマスクを外してよいとの指針を出した。マスクを外さないと、夏に向けて熱中症が心配になる。学校は、熱中症対策にどのように取り組んでいくのか。

→ マスクと熱中症に関わり通達も来ている。屋外では、マスクを外していく方向になる。

マスクをつけることに慣れてしまっているのか、「外していいよ。」の声掛けでは、子どもたちは外さないのではないか。

→ (状況に応じて、) マスクを外すよう指導していく。

(4) 地域づくり協議会(青少年育成部・環境安全防災部)との連携事業について

○校長

「あたごっちボランティア」は、児童がボランティアとなって地域と協働で行事の運営を行うという取組であり、愛宕小の素晴らしい伝統の一つである。しかし、この2年、コロナ禍で活動ができなかった。しかし、今年度は、地域づくり協議会青少年育成部会からも要望・応援をいただき、再び始動できることになった。また、「宿題支援教室」についても、地域づくり協議会から応援の声をいただいている。日本語支援が必要な児童が増えてきており、支援をしていただけると有難い。環境安全防災部とは、秋の地震津波訓練や海岸清掃を協働して実施したい。

(質疑応答と意見)

○委員

「あたごっちボランティア」は、これまで、PTAのバザーに出店するなど、様々な取組を行ってきた。今年度、再始動するにあたり、まずできるのは「あたごの灯り」だと考えた。子どもたちに募集をかけていきたい。

(5) 学校支援ボランティアの活動について

○校長

学校支援ボランティアについては、5月15日に説明・打合せ会を行った。様々なボランティア活動について、できる限り再開していきたい。学習支援ボランティア活動については、ボランティアコーディネーター担当教員から、マチコミメールで登録ボランティアに協力を募り、ボランティアに参加していただく仕組みで行っていく。

(質疑応答と意見)

○委員

2年ほどボランティア活動が休止していたので、ボランティア登録者の名簿は、見直しを行う必要があるのではないかと。

→ 現在名簿に登載されている方は、昨年度、お一人お一人に電話で確認し、承諾を得ている。

○委員

「宿題支援教室」について、子どもたちには毎日どんな宿題が出ているのか。

→ 主に、国語と算数である。学習支援ボランティアさんに協力をお願いしたい。

先生も一緒に運営するのか。

→ これまでもボランティアさんで運営していただいていた。運営に当たっては、担任教員とボランティアさんの打合せが必要と考えている。

○委員

外国籍児童が来室するなら、通訳できる方が必要ではないかと。

→ 通訳を宿題支援教室に配置することは難しい。児童は、母語も曖昧な状況であることが多く、普段は日本語で学習している、そのため、意思疎通は日本語で概ね図ることができる。具体物や絵も用いてコミュニケーションをとり、日々語彙を増やしている。

(6) 児童のスクリーンタイム削減の取組について

○校長

調査によると、鈴鹿市の児童生徒は、学習や読書の時間よりもネットなどの画面を見ている時間の方が多いという結果が出ている。豊かな人間性を育てる観点

からも、児童生徒のスクリーンタイムを削減できないかと考えている。例えば、スクリーンタイム削減の強化期間を設定し、記録をつけることで削減への意識づけを図ることも考えられる。また、スマートフォンについては、「友だちが持っているから」と子どもにせがまれると、持たざるを得ないと考える保護者も多いと思われる。スクリーンタイムを必要最小限に抑えたり、スマホよりキッズ携帯を持たせたりすることについても、PTA と協議し、取組ができればと考えている。

(質疑応答と意見)

○委員長

スクリーンタイム削減は、現状の中でどのように取り組むべきか非常に難しい課題である。

○委員

以前、テレビの視聴時間を制限する「ノーメディアデー」という取組を学校が設定してくれていた。子どもに強制的には言えない中で、親子がともに取り組んでみようと呼びかけ合うことで、視聴時間を減らすことができた。そのように学校が発信してくれるなら、取り組みやすくなるのではないかと。

○委員

スクリーンタイム削減の取組は、健康上の問題を含めて協力依頼をしてはどうか。

○委員

実際に、児童の視力は落ちているのか。データで示すことで訴えていくことができるのではないかと。

→ 保健だよりで特集を組み、啓発を図っていきたい。

(7) 施設設備等の課題について

○校長

駐車場の門扉については、修理が不可能な壊れ方をしており、市へは以前から要望をしているが、新しいものに交換するには高額な予算が必要となり、なかなか改善ができずにいる。施設設備について、他に課題があれば教えていただきたい。

(質疑応答と意見)

○委員長

公民館とも共有の駐車場なので車の出入りが多い。門扉をなくしてはどうか。

→ 不審者侵入や無断駐車等が懸念されるため、なくすことは難しい。

○委員

このところプール学習は行われていないが、今後どうなっていくのか。

→ 今年度は、市内では1校のみ実験的に県営スポーツガーデンへ送迎してもらいプール学習を行っているが、他はすべて中止となっている。次年度については、今後市で検討されていく。

(8) 校区の危険箇所について

○校長

昨年度2回以上不審者情報が寄せられた箇所、雨天時に増水や冠水などで児童の登下校に危険のある箇所、その他の理由で児童の登下校で憂慮される状況がみられる箇所、児童が立ち入ることができる空き家や廃屋などの情報提供をいただくと有り難い。

(9) その他

第2回学校運営協議会 6月27日(月) 9:30 愛宕小学校会議室
<予定している主な内容> 学校評価指標, いじめ防止基本方針, その他

(10) アドバイザーより

○教育支援課アドバイザー

新型コロナウイルスの感染拡大により、ボランティアなどの様々な活動の中止を余儀なくされてきたが、だんだんとその対応策が明らかになってきた。感染防止対策を講じながら、徐々に活動を進めていってほしい。

愛宕小は、地域づくり協議会の方が学校運営協議会に参画しており、鈴鹿のトップを走っている。より一層の連携を図ってほしい。鈴鹿市では、協働型コミュニティ・スクールを目指している。学校・家庭・地域が協力しながら取組を進められるよう、協議していってほしい。